問題背景

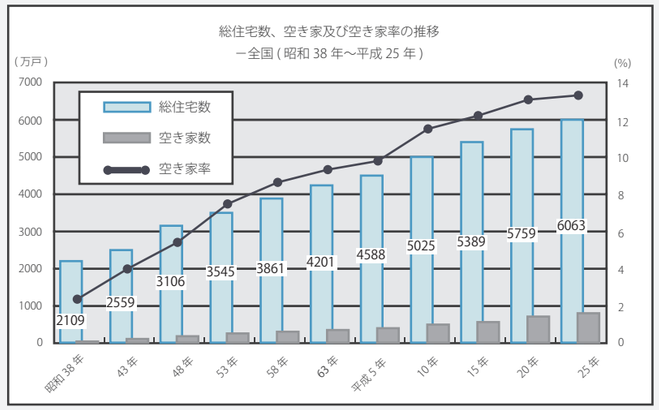
01

鳥井畑活性化 PROJECT

～古民家を活かしたまちおこし提案～

現在日本では、古民家の数が 156 万棟あり、その多くが空き家となっている。全国平均の空き家率である 13.5%に当てはめると約 21 万棟の古民家が空き家になっており、放置されている。多くの古民家が空き家となり放置されているのは、少子高齢化の進行や都市部への人口集中が原因で発生している。古民家が空き家となることで住宅管理の手薄さを招き腐食などの老朽化を早めてしまう。しかし、全国各地に存在する古民家はその土地の歴史、文化及び伝統を表すものであり、地域の魅力の一つで大切な財産だ。そのため、古民家再生と言った地域おこしがブームとなってきている。古民家が並ぶ景観そのものは観光資源にもなり得るためだ。それに加え、古民家をカフェやレストラン、宿泊施設と言った様々な形で活用できるという考えが広まりつつあり、古民家は貴重な地域資源と捉えられるようになってきている。そこで古民家を再生し、地域活性化を行う住民が古民家を大切な地域資源として捉え、組織づくりなどを通して地域全体が一体となることで、古民家の再生・活用へと繋がる。そして、古民家を地域の課題解決のツール、拠点として使うことで地域に欠かせない「場」となり、「核」となり地域活性化にもつながっていくと考えている。

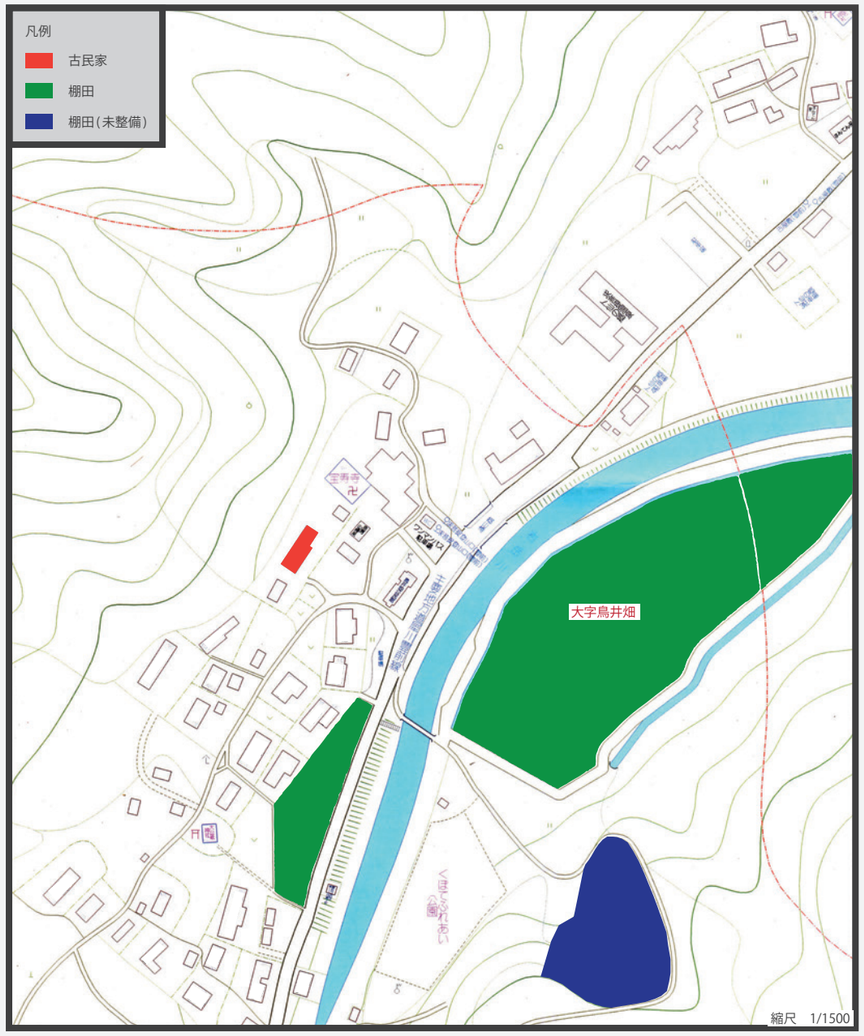
引用：総務省統計局「平成 25 年住宅・土地統計調査　特別集計」



諫見研究室
13TH013　江本卓生

諫見研究室
13TH015　岡村信一郎

対象敷地 02



出典：2015 ZENRIN CO.LTD.

●対象敷地

福岡県豊前市大字鳥井畑地区

人口

15 歳未満 男 1 人 女 3 人
15~64 歳 男 19 人 女 16 人
65 歳以上 男 14 人 女 22 人

引用：人口統計ラボ （年齢別・男女別人口）

対象とする敷地は福岡県豊前市大字鳥井畑地区だ。この地区には豊前市にある求菩提山を支えてきた鳥井畑集落が存在し、この集落を中心として広範囲に伝統的な石積みの棚田がある。この様な集落と石垣の棚田を有する農村景観の融合は、国の重要文化的景観にも選定されている。

全体としては母屋と馬屋をセットにした屋敷構えの住宅で、改修により屋根や壁面は建設当初の様式を留めていないものの、その多くは 40 ～ 50 年以上経過している。こうした建造物は産家集落まで含めると 48 棟を数え、全体の 85% にのぼる。また、明治元年に求菩提の山中より移築したものも確認され、「ザシキ」「ナカアノマ」「ヒロマ」の表向き空間と「オクザシキ」「ナンド」「イマ」の内向き空間とが区別されている六間取り平面は、本地域の伝統的な建築様式として看取できる。

引用：豊前市公式ホームページ

鳥居の台座

台座 （左）

台座 （右）

大鳥居の台座だ。台座から上の部材は求菩提の山門下に移築された。鳥井畑の名前の由来にもなっている。

石垣の棚田

石垣で積まれた整備されている棚田だ。住宅の景観と合わさって地域特有の美しい景観を保っている。

棚　田

未整備の棚田と比較して、広範囲にわたって広がる棚田が美しい景観を保っている。

未整備の棚田

この地区の特徴である石垣の棚田だが、雑草が生い茂り、石垣が見えなくなっている。

古　民　家

今回、対象とする古民家だ。現在、家主は老人ホームにいて、隣の寺院の夫婦が古民家を管理している。

ツチ小屋

農作業用具を保管する施設だが、現在では、使われている様子はなく、物置の様な状態になっている。

水　車

鳥井畑地区のモニュメントの一つ。設置されてからは水車の写真撮影を目的に来る人が増えた。

トンボ岩

石垣の棚田に入るためにつくられた階段。鳥井畑地区特有のモノで他の地域では見られない。

●重要文化的景観

文化的景観の中でも特に重要なものについて、都道府県又は市町村の申出に基づいて、国によって選定された地域のことだ。選定申出にあたっては、文化的景観としての価値調査や保存計画の策定などが必要となっている。重要文化的景観の選定制度は、平成 16 年の文化財保護法の一部改正によって始まった、新しい文化財保護の手法になる。

引用：文化庁 （重要文化的景観選定地とは？）

求菩提付近で行われる行事

- 求菩提山の田植祭り
- 求菩提セラピーフェスタ
- 求菩提めぐり
- 里のしごとを楽しむ会
- 豊前神楽 (山内神楽)
- 森林セラピー
- ホタル祭り
- あじさい祭り
- しゃくなげ祭り
- 合河ゆず祭り

この地域には様々な行事や体験教室が開催される。これらの中から青文字で表記している行事を体験してきた。

豊前神楽 (山内神楽)

見　物　客

神　楽

奉　納

豊前神楽は、その年の豊作を祝い、五穀豊穣を祈る里の祭りとして人々に親しまれている。しかし、地域住民より来訪者の方が多く訪れているように感じた。

森林セラピー

散　歩

休　憩

鼓動を聞く

酵素づくり

体験教室

三つのコースがあり、そのうちの一つが鳥井畑を歩くコースだ。コースには鳥井畑で体験できる体験教室も入っている。鳥井畑の自然を感じることが出来、心を癒すことができる。

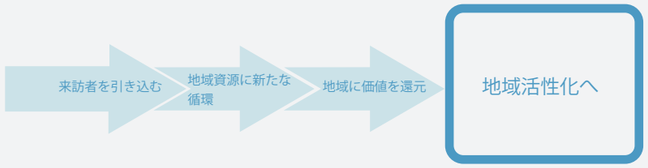
●鳥井畑地区の調査結果

鳥井畑地区の現状は、石垣の棚田を有する農村景観が存在するが、空き家や未整備の棚田などが多々みられ、荒廃しつつある。また、行事がない日や平日は、あまり人を見かけない。さらに、地域住民のなかには、鳥井畑地区に長く住んでいる事により、農村景観などの価値のある地域資源が存在する事や、この土地特有の行事が行われるのが当たり前になり、これらの事に対しての愛着心や誇りがなくなりつつある。このままだと地域の存続が厳しいと感じたため、現状の打開策を考えていきたい。

目的

03

私達が考える地域活性化



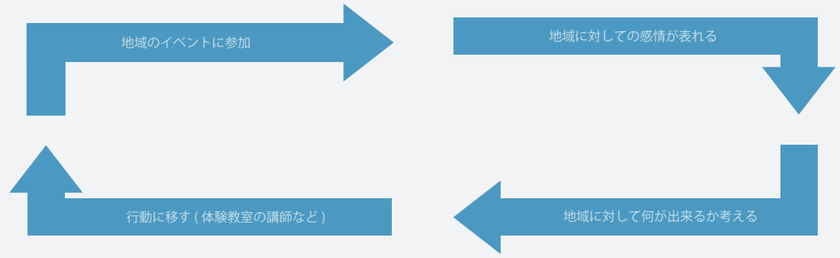
私達は、地域活性化には来訪者を外から呼び寄せるだけではなく、地域に引き込み、地域を存続させることや地域の資源に新たな循環を与え、地域に価値を還元することだと考える。

●地域活性化の定義

各市町村の人口減少に歯止めがかかっており、近い将来において定住人口の維持が可能であるのを活性化していると捉え、過疎化の進行により人口が減少し続けると同時に高齢者比率のみが高まっているものを活性化していないと捉える。

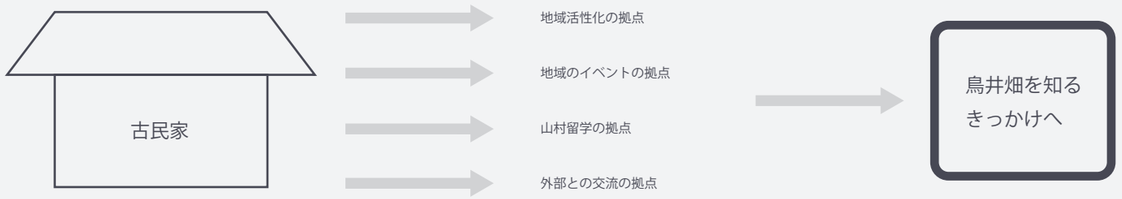
引用：農林水産省 （地域活性化の定義）

地域存続のサイクル



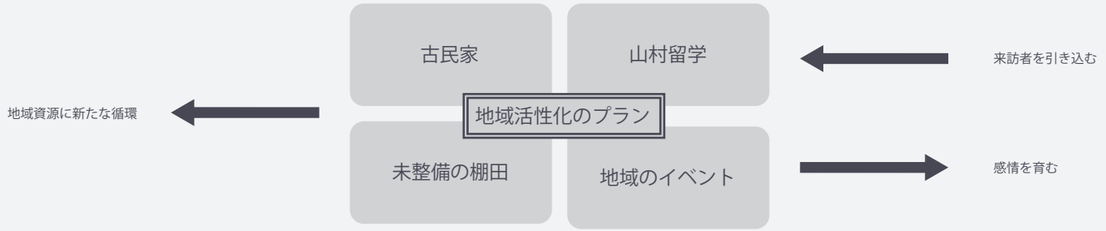
地域を存続させるためには地域に対する愛情、誇りなどの感情を育むこと、地域住民が地域のことを考えること、地域のイベントに参加することが重要だと考える。また、地域のイベントをしていくうちにその地域の良さを再認識したり、地域に対する愛情、誇りなどの感情が育むのではないかと考えている。

古民家の活用法



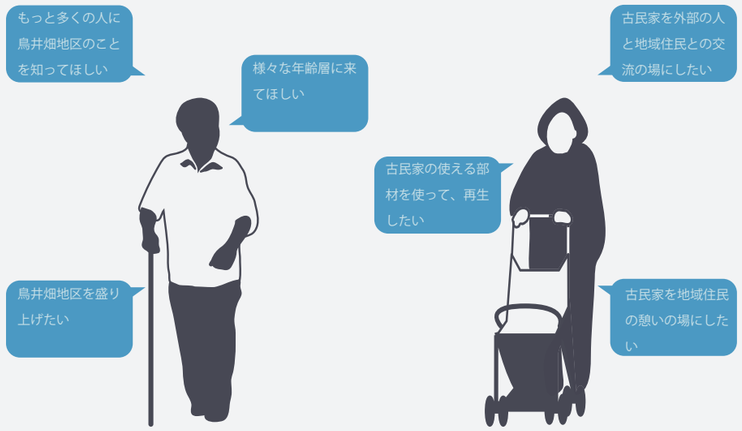
「対象敷地　02」で取り上げた古民家は、家主がいた頃は陶器市が開かれており、地域住民の集まりの場としても利用されていた。現在でも、古民家をどうにか活用できないかと考える地域住民の話し合いの場として利用されている。今後は、地域住民だけではなく外部の人に向けて、鳥井畑地区の情報発信や自然体験などの拠点として活用していきたい。

地域活性化のプラン



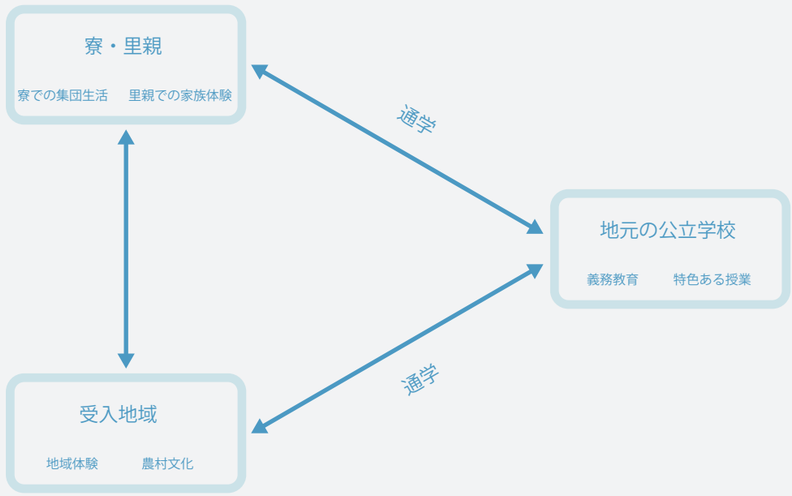
山村留学に未整備の棚田と地域のイベントを組み込んで、古民家を寮として活用する。小中学生に山村留学を体験してもらい、期間が終了したら新たな学生が体験する。これを繰り返し、人が常住するサイクルを作り上げていく。また、未整備の棚田を活用することにより、地域資源の循環を促し、地域住民に農業の講師をしてもらう事で地域に対しての感情を育んでいきたい。

地域住民の声



「問題背景　01」で述べたような問題がある中で、古民家再生と地域活性化が鳥井畑地区にとって、必要なことなのかを知るため、地域住民の方に鳥井畑地区と古民家について聞き込みを行い、以上の回答を得た。

山村留学とは



都市部の小中学生が長期間に渡って親元を離れ自然豊かな農村漁村で生活をし、様々な体験を積むシステムの事だ。学校環境や家庭事情等の何らかの課題を持った子供を預かるのではなく、自然体験や生活体験を希望する、日本全国の小中学生を対象としている。

●特徴

山村留学には、四季を通した様々な自然体験、キャンプなどの野外活動、小規模校での授業、地元との交流など数多くの体験が待っている。また子供だけでなく保護者の方々にも地域や保護者同士の交流が生まれ、家族全体の体験の場にもなっている。全国には様々な方式の山村留学があり、それぞれの地域を生かした山村留学が実施される。そのため、活動などの体験内容は、地域によって変わる。

●期間

一年間単位で行う長期山村留学と夏休みなどの長期休みを利用して行う短期山村留学がある。

●方式

学園方式　：月の半分を寮で生活し、残りの半分は農家ホームステイをする方式

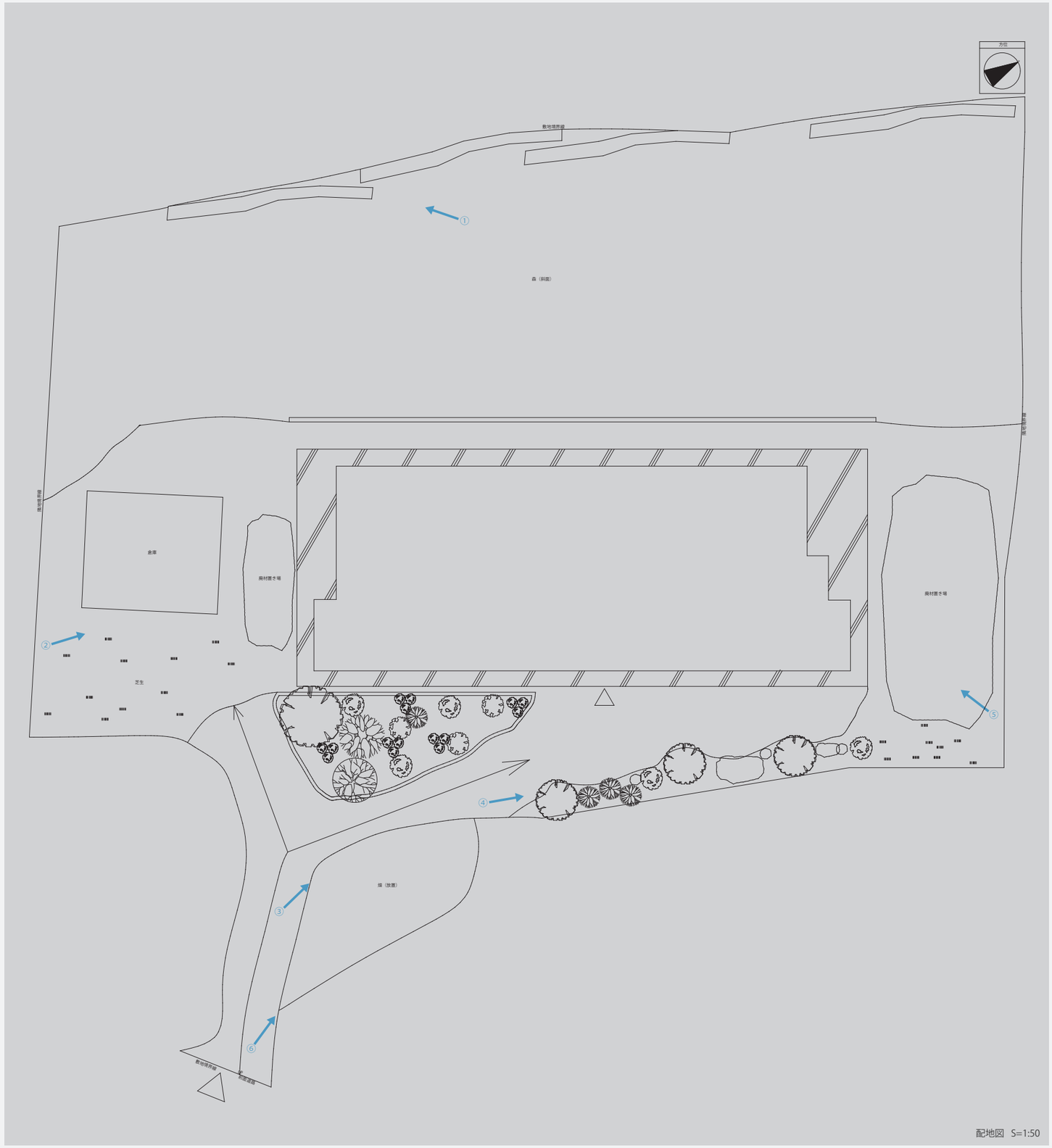
里親方式　：年間を通じて、地域にホームステイして生活をする方式

寮方式　　：年間を通じて、山村留学センターなどの寮で生活する方式

家族方式　：家族で転居し、地域で生活をする方式

引用：NPO 法人　全国山村留学協会ホームページ

古民家の現状 04



配地図　S=1:50

敷地・古民家の実測調査

敷地・古民家の現状を知るためと古民家の図面が無かったため、実測調査をしてきた。その調査で気づいたことを図面と写真を使って、述べていく。

山の斜面にある鹿よけの柵だ。鹿よけのためだが、柵の内側に鹿のフンが見られるため鹿よけになってないようだ。その鹿よけの柵までが敷地境界線だ。

古民家と違い比較的新しい倉庫だ。倉庫の中には、母屋と納屋の中に入っていた家財道具や農具などの生活用品が多く入っている。

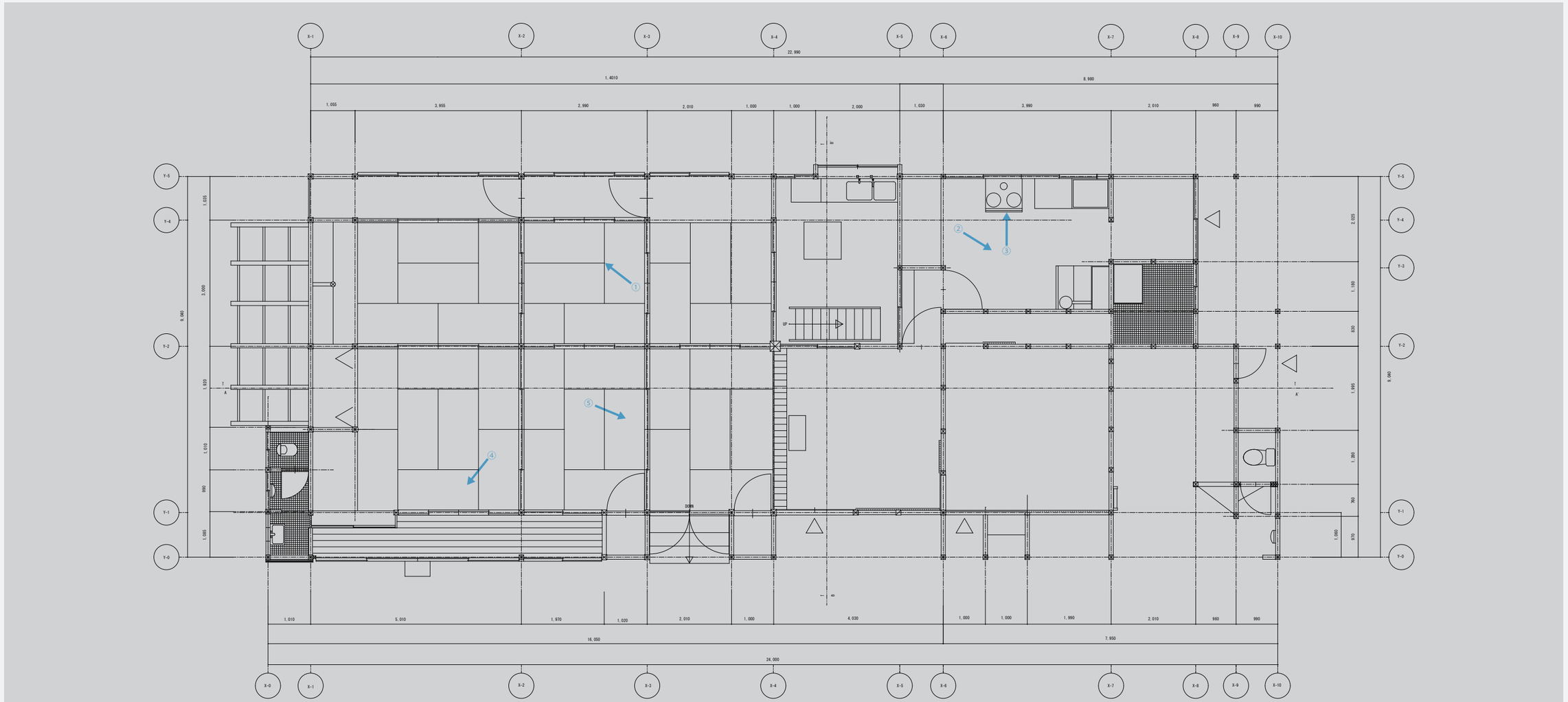
元々は、無造作に生えていた植栽だ。地域住民の方々と協力して、縁側から求苔提の山々が見えるように伐採した。

柵のような役目の植栽だ。隙間が広く空いており、植栽の向こう側は怪我をする高さなのでかなり危険である。

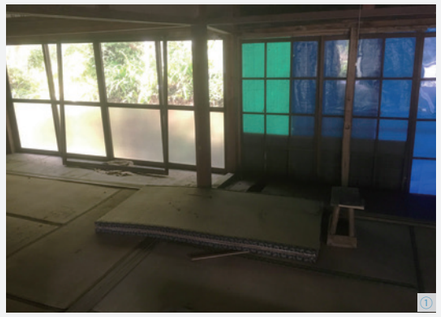
草刈りで出た敷地内の草や木などのゴミ置き場だ。生えている雑草との見分けがつきづらくなっているため足の踏み場が分かりづらい。

レベル差があるため古民家の敷地とは分かりづらくなっている畑だ。まわらないと入れないため手間がかかる。現在は、誰も管理する人がいないので放置されている。

古民家の現状 05



一階平面図　S=1:50



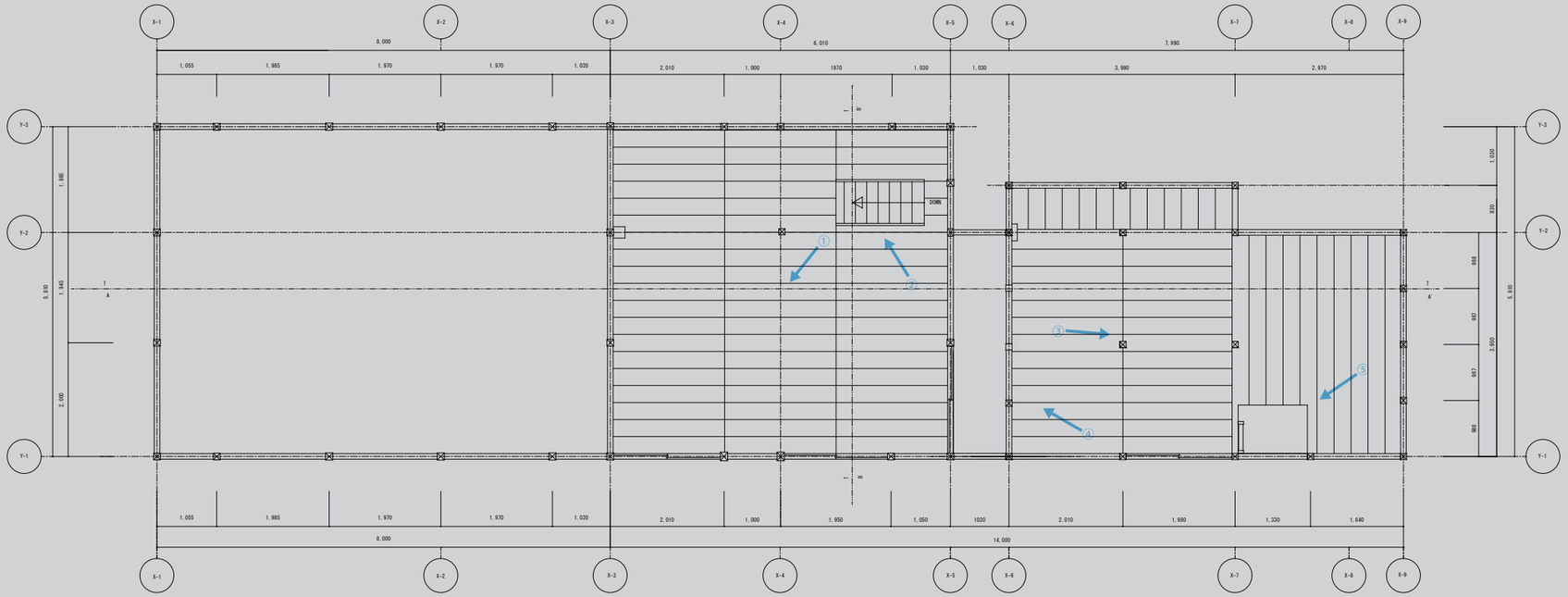
何のためにあるかわからない廊下だ。どこかに通じているわけでもない。化粧材が剥げているためどんな内装だったかもわからない。窓のすぐ外が斜面なので日当たりも悪い。

天井からぶら下がっている滑車で水を汲むタイプの井戸だ。使われなくなってから時間が経ち、滑車の紐が切れていたりと傷んでいるのがわかる。

三和かまど製の二連式かまどだ。職人が一から作ったかまどである。こちらも使われなくなってから時間が経っており、傷んできていることがわかる。

求苔提の山々や棚田が見え、落ち着いた気持ちになれる縁側だ。また、アプローチが見えるため来客に気付きやすく、外部との交流が取りやすくなっている。

六間取りとなっており、鳥井畑地区の伝統的な建築様式と看取できる。写真の場所はヒラマで、隣の階段は式台で特別な人を向かい入れるときに利用されていた。



二階平面図 S=1:50

全面板張りで板も薄く、脆くなっており、抜け落ちる可能性があるため歩けない箇所が多々ある。また、所々雨漏りして、一階にまで水が落ちている。

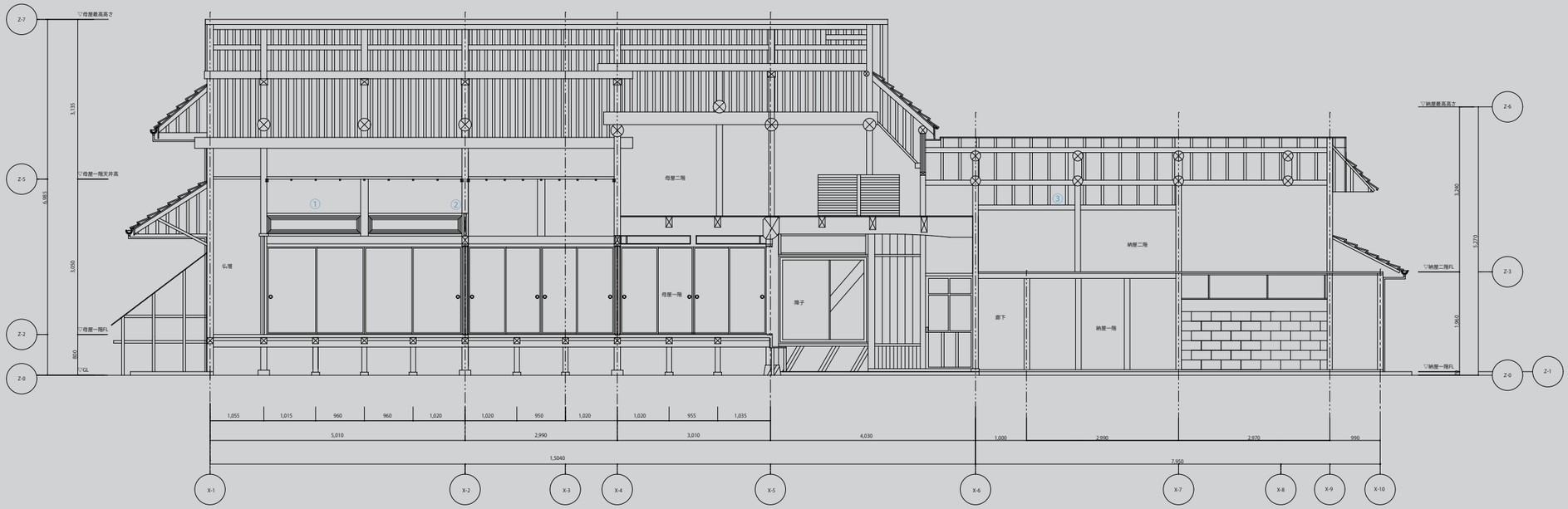
蓋がついているが、大きさが合っていない。どこからか持ってきて、そのまま使ったのだろう。注意しながら下りないと落ちそうになるので大変危ない。

母屋二階の床と同じく、全面板張りの床だ。床は母屋より強度があるが、所々抜けそうである。また、窓がガラスではないため、閉めると暗くなってしまう。

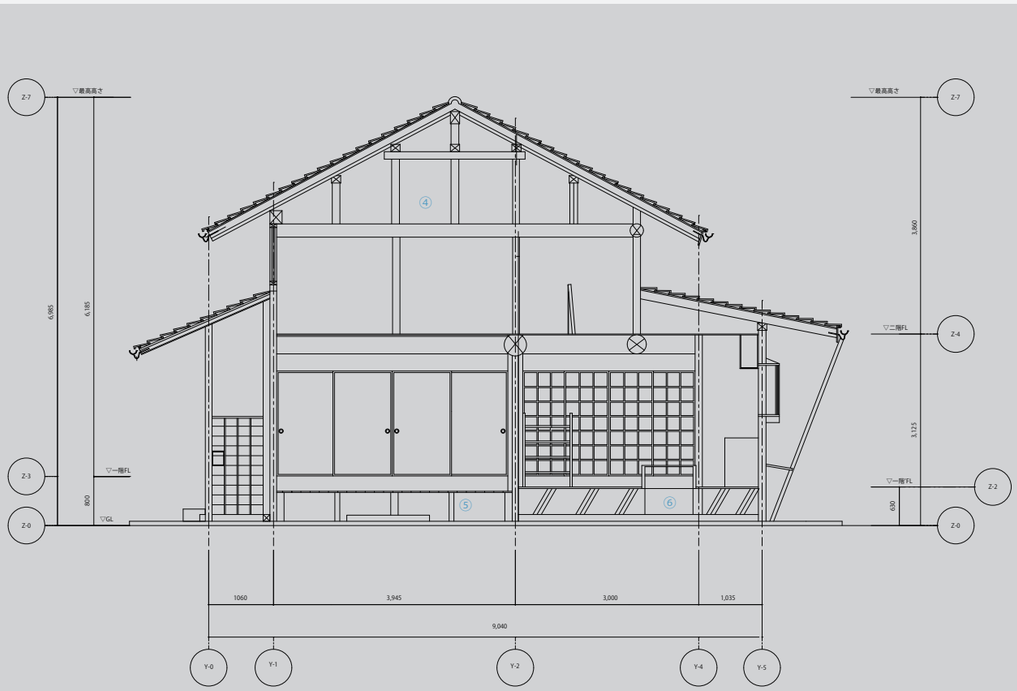
床の高さは母屋の床高だが、納屋の二階に配置されていて腰と同じくらいの高さになる。何のためなのかは不明。納屋を増築したのであればその名残だろう。

納屋の二階と一階を行き来するためのはしごだ。木で出来ており一階の壁に直接着けられているため、外すことはできない。

古民家の現状 07



A-A′ 断面図 S=1:50



B-B′ 断面図 S=1:50

A-A′ 断面図

他の欄間と比べて傷みが少ないため、比較的新しいものだと考えられる。

一階の様々な箇所で天井のレベル差が生じており、理由は不明だ。

母屋の小屋組みと同じで別の場所で使われた部材を再利用している。

B-B′ 断面図

求苔提山の山中に建っていた家の部材を再利用して造られた小屋組みだ。

木造伝統工法の基礎で、束石と束があるものもあれば束しかないのもある。

⑤の基礎と異なり、コンクリートで囲まれている。

南西側立面図　S=1:50

北東側立面図　S=1:50

南東側立面図　S=1:50

北西側立面図　S=1:50

南西側立面図

瓦の色が違う事から分かるようにトイレは増築されたようだ。トタンで隠れているが多くのゴミがトタンの下に積まれている。

北東側立面図

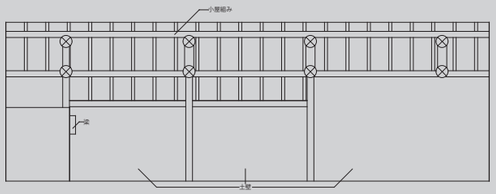
納屋から出入り可能な扉があるが、廃材が積まれているせいで開閉不可能になっているため出入りが出来なくなっている。

南東側立面図

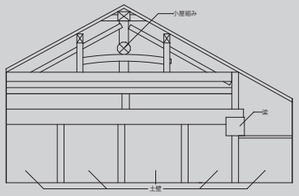
玄関以外に屋内に通じる開口部が二つあり交流が取りやすくなっている。納屋の一部はシャッターが付いてなく常時開いている。

北西側立面図

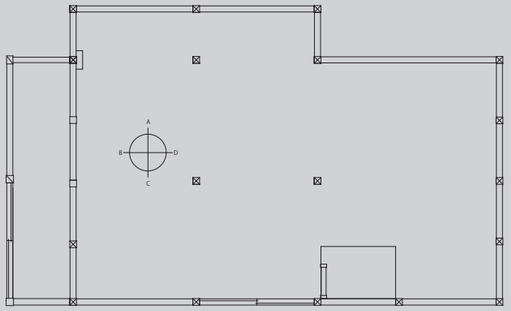
古民家の裏が斜面となっており古民家の全体を一目で見ることが出来ない。植物が日光を遮っており日当たりと風通しが悪い。

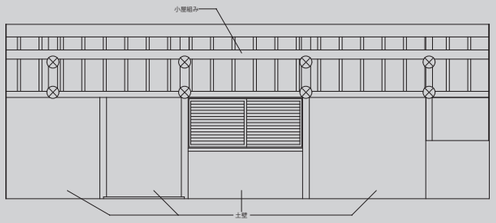


A 展開図

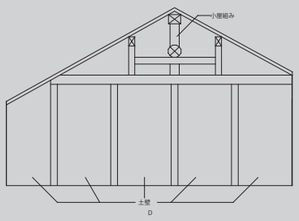


B 展開図



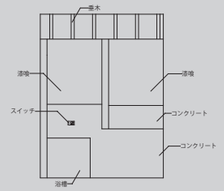


C 展開図

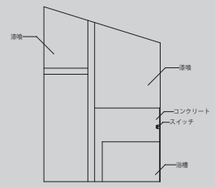


D 展開図

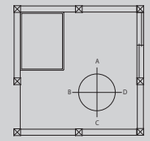
納屋二階展開図　S=1:50

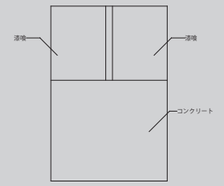


A 展開図

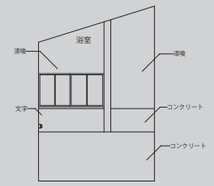


B 展開図



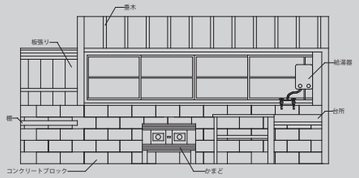


C 展開図

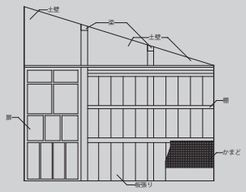


D 展開図

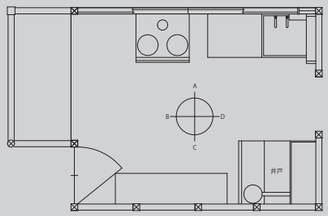
納屋浴室展開図　S=1:50

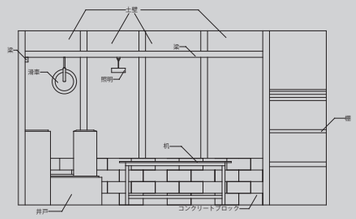


A 展開図

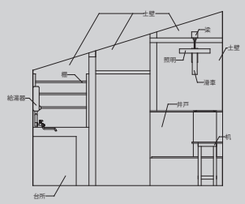


B 展開図



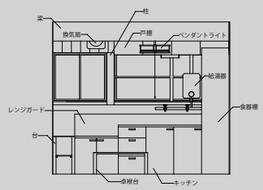


C 展開図

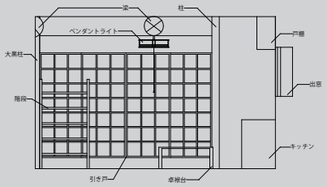


D 展開図

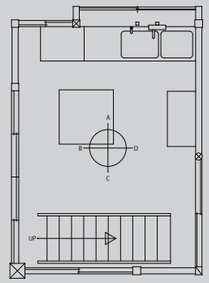
納屋台所展開図　S=1:50

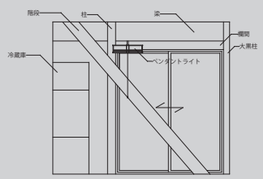


A 展開図

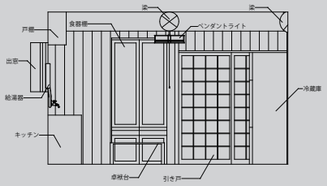


B 展開図





C 展開図



D 展開図

母屋台所展開図　S=1:50

山村遊学のプログラム

平日は学校に通い、休日は地域のイベント事に参加して地域住民との交流を深めてもらおうと思っている。子供達には使用していない棚田を貸出し農業をしてもらう。イベントがない休日は子供たちに与えられた棚田での農業を、地域住民に教えてもらいながらやっていく。平日は地域住民や寮母が管理をしていく。月終わりには翌月の主なスケジュールを寮母と話し合いながら決めていく。

●平日のスケジュール

06:00　起床
06:30　朝食準備　洗濯物干し
　　玄関掃除　蚕の世話 (当番制)
07:00　朝食
07:50　登校
17:00　帰宅
17:15　風呂準備　蚕の世話 (当番制)
　　夕食準備 (当番制)　夕食
19:00　風呂　宿題
20:30　連絡 (明日の予定など)
21:00　自由時間
22:00　消灯　就寝

●休日のスケジュール

07:00　起床
07:30　朝食準備　洗濯物干し
　　玄関掃除　蚕の世話 (当番制)
08:00　朝食
08:50　集合・前日決めた予定に沿って行動
17:30　解散・帰宅
　　風呂準備　蚕の世話 (当番制)
17:45　夕食準備 (当番制)　夕食
19:30　風呂　宿題
20:30　連絡 (明日の予定など)
21:00　自由時間
22:00　消灯　就寝

山村遊学の農業・イベント

留学生と地域住民が交流を深め、より早い期間で地域になじめるように既存のイベントに加え、新しいイベントを設ける。新しいイベントは山村留学生たちをメインに行っていく。山村留学生がメインのイベントなので、来訪者向けではないものとなっている。来訪者向けではないが数をこなし、山村留学生がなれる頃には外部にも呼び込みをし、来訪者も交えたイベントにできればと考えている。既存のイベントには山村留学生たちを組み込むことで新しい風を吹かすことができ、地域住民たちの刺激にもなるだろう。これらのイベントを行うことで地域が盛り上がり地域活性化につながるだろう。

農業体験

田植え前の畑で泥遊びなどの体全体を使った遊びを行う。棚田や刈った藁を使ってモニュメントやものづくりをする。取った米をかまどで炊き地域の人にふるまう。

山菜採り

鳥井畑や求菩提の地域を歩き回って山菜を取る。店では売っていない食べ物や普段食べられないものを見つけ食べることが出来る。

出典：山菜採りハイキング

システム ：寮方式　期間 ：一年間から　人数 ：五人まで
寮母　　：地域おこし協力隊 (三人)　対象 ：小学二年生から中学二年生

山村留学という方法を利用したのは、この地域が子供達の中に特別なものとして残り、子供達の第二の故郷になって欲しいからだ。そして、またこの地域に戻ってきて欲しいからだ。
システムは、寮（古民家）で集団生活し、そこから鳥井畑地区の学校（合岩小学校・合岩中学校）へ通学する寮方式にした。この寮を管理する寮母は地域おこし協力隊に担当してもらう。対象は幅広い年齢で設定して年齢が高い子供が低い子供を支えるようにした。中学三年生からの新規の参加は受験もあり厳しいのでなしにし、中学二年生からの継続した人のみを対象とする。人数は、寮母が参加者全員に目が届くように少人数とした。期間は、一年を通して地域のことを知ってほしいため一年間からにした。

補足

・小中学校から古民家は遠いため、自転車で通学する
・留学生は、盆と年末年始には実家に帰省する
・寮母は、ローテーションを組んで一人が古民家に泊まる

養蚕・裁縫

鯉のぼり教室

育てた蚕から取った糸がある程度貯まったら、その糸を用いて裁縫をする。つくる物はその季節に合わせたものや山村遊学の思い出となるものをつくる。つくったものを地域で行われている藍染教室で染めたりする。

出典：夜間工房「繭の家 - 養蚕プロジェクト」

求菩提温泉「卜仙の郷」前の谷間に、「鯉のぼり」が泳ぐ。求菩提の里に春の到来を告げる風物詩として人気だ。そのなかに一つ、留学生たちがつくったオリジナルのこいのぼりを加える。

出典：豊前市公式 HP　年間イベント

山村遊学

本来ある山村留学の名前では固苦しい印象を与え、子供が興味を持ちづらく参加しにくいと考えた。そのため、「留学」を「遊学」とすることで子供が興味を持ち、柔らかい印象を持たせるようにした。

地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移したものを地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱する。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR 等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。活動期間は概ね一年以上三年以下になる。

引用：総務省自治局 （地域おこし協力隊）

スパン・オブ・コントロール

マネジャー、一人が直接管理している部下の人数や、業務の領域だ。一般的に一人の人間が直接管理できる人数は五人から七人程度と言われているが、様々な要因によっては左右される。なお、スパン・オブ・コントロールの概念は企業だけでなく、他の分野でも用いられる。例えば、教育現場では一人の教師が抱えられる生徒の数が同様の概念で考えられる。

引用：goo 辞書

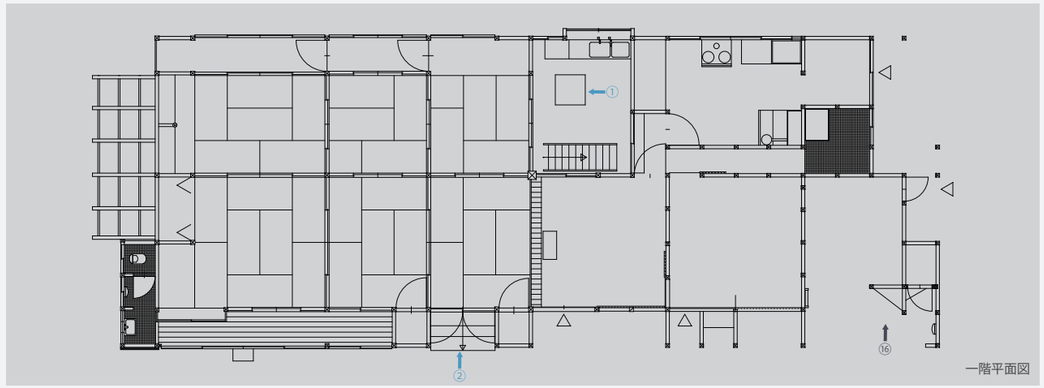
森林セラピー

今まで大人たちがやっていた森の案内人を留学生たちに担当させる。留学生たちに森の案内人をさせることで今までとは違った目線で見ることができ、違った案内が出来るだろう。

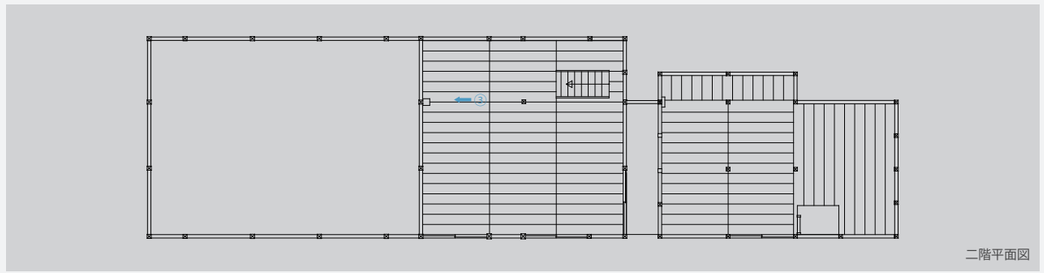
ホタル祭

留学生たちが見つけたホタルを見ることができるスポットを案内してもらう。ホタルカフェでは山帰来のテラス席として古民家の縁側を開放する。留学生たちは店員になり外部の人間と接する。

古民家の再生案



一階平面図



二階平面図

①

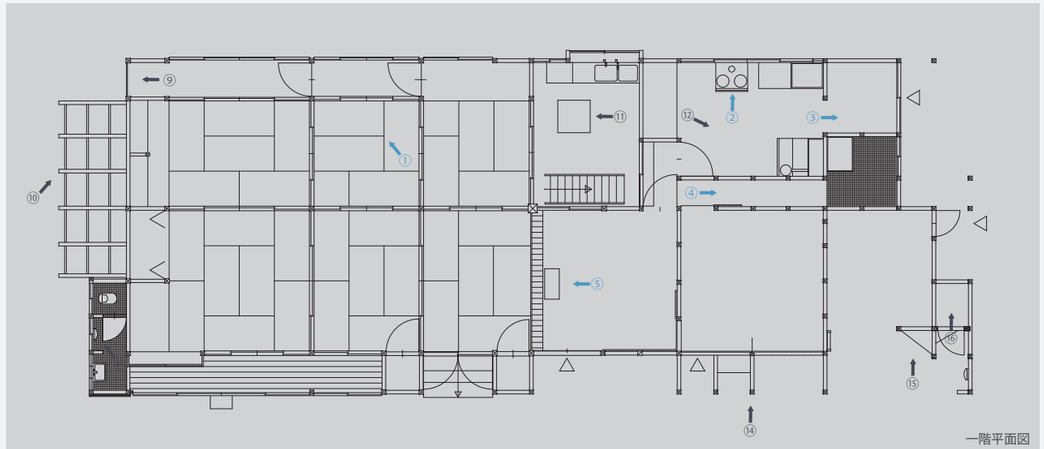
②

③

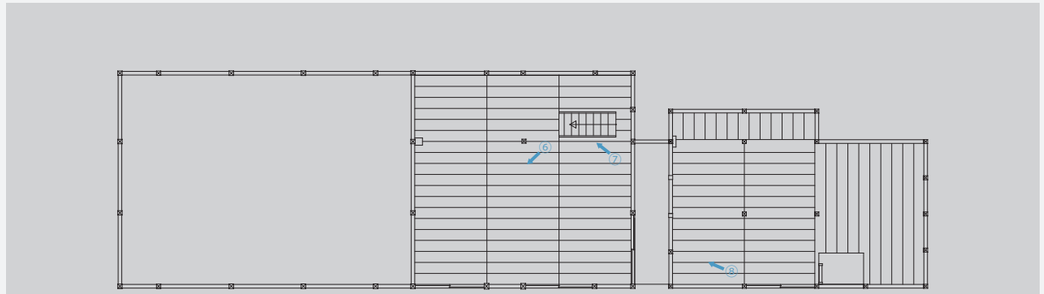
古民家の使われ方

古民家を建てた夫婦のお孫さんに会い、以下の話を聞くことが出来たこの話を参考にして、古民家のあり方や生活様式を古民家の再生案に組み込んでいく。

この古民家は祖父母が結婚するときに建てたそうで、約百年の歴史がある。鳥井畑地区の小学校や神社を建てるときに集めた宮大工の方々を宿泊させるために広く増築した。また、時代の流れに合わせて、居間を台所に改築した。台所に掘りごたつがあるのはその名残だ。母屋の二階は納戸で家財や骨董品などをしまって、生活などで使っていたわけではない。納屋の右の倉庫で牛を飼っていて、二階では蚕を飼い、糸を織っていた。ヒラマに直接出入り可能な階段が設置されていて特別な人を招くときに使用してた。私は、この古民家であまりモノがない生活を送っていて、それが美しかった。また、このような空間で生活したい。



一階平面図



二階平面図

この古民家の再生案を提案するうえで、昔の使われ方と豊前の歴史を照らし合わせ、改善する箇所と残さない箇所を分別した。必要で傷んでいる箇所は改善して、不要だと感じた箇所は残さない事にし、それらを記載していく。

改善する箇所

①

②

③

④

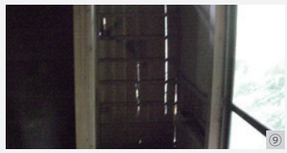
⑤

⑥

⑦

⑧

残さない箇所


⑨

⑩

⑪

⑫

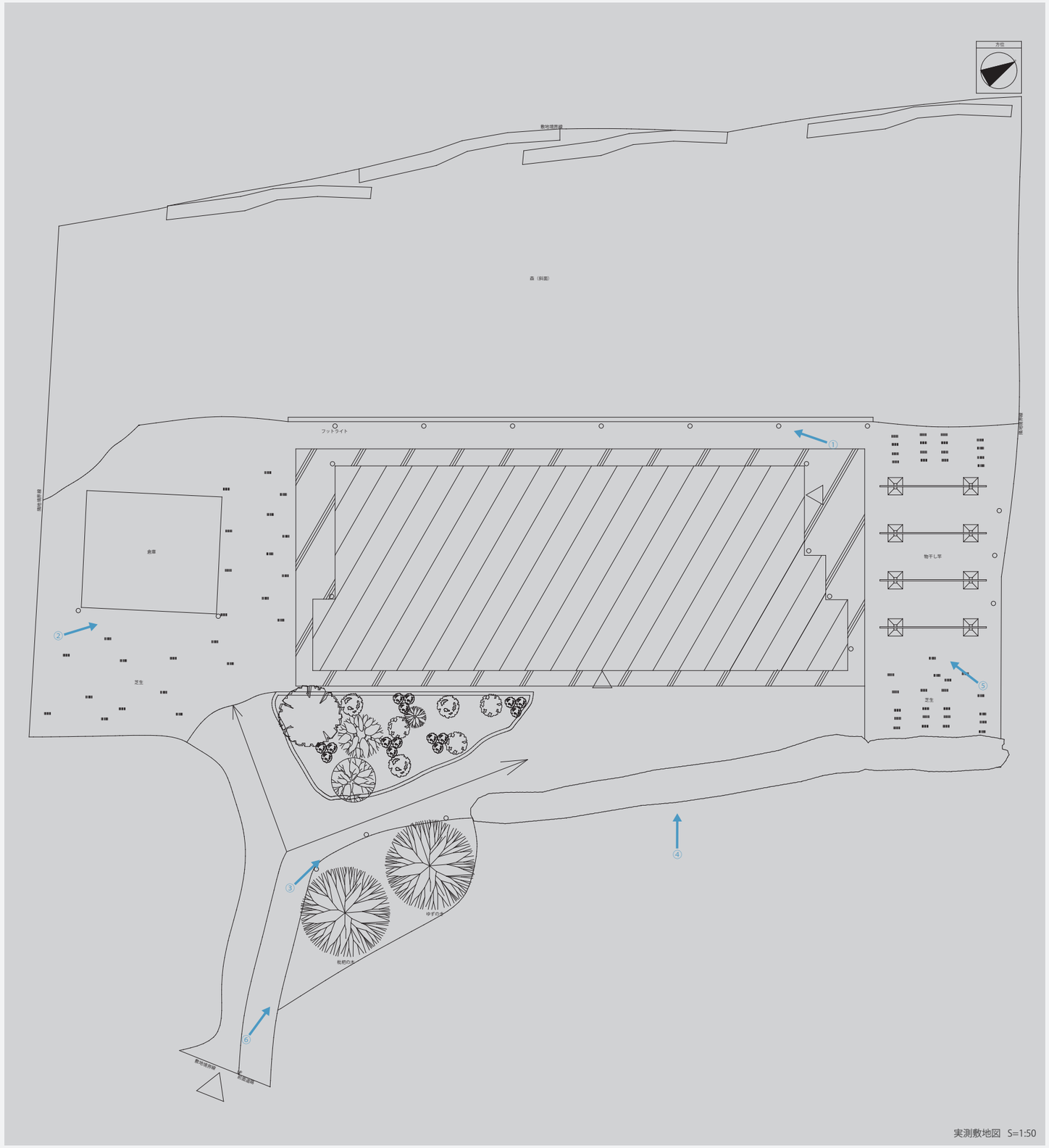
⑬

⑭

⑮

⑯

古民家の再生案 12



実測敷地図　S=1:50

夜は暗く足元が分かりづらい。そのため足元が分かるように足元灯を設置する。単2型の電池式なので交換も簡単だ。センサー式なのでスイッチも不要である。

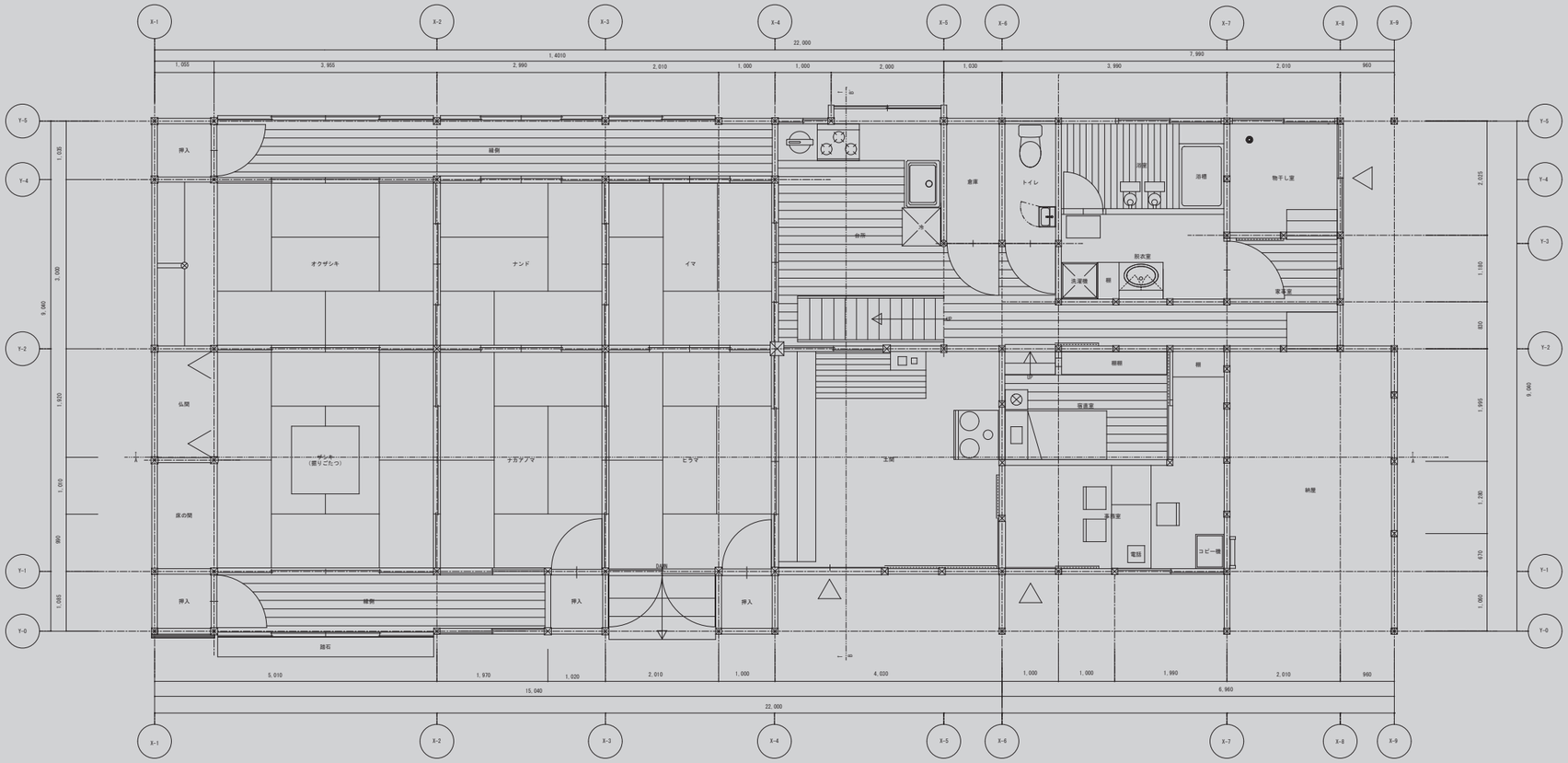
比較的新しい倉庫なので、新しい倉庫に変えずに使用する。中にしまうものは頻繁に使用するものではなく季節ごとに使用するものなどをしまう。

縁側から植栽を通して地域の風景を眺めることができる。今は景色を眺められるように植栽を少し伐採してあるが成長したら留学生に伐採してもらおうと考えている。

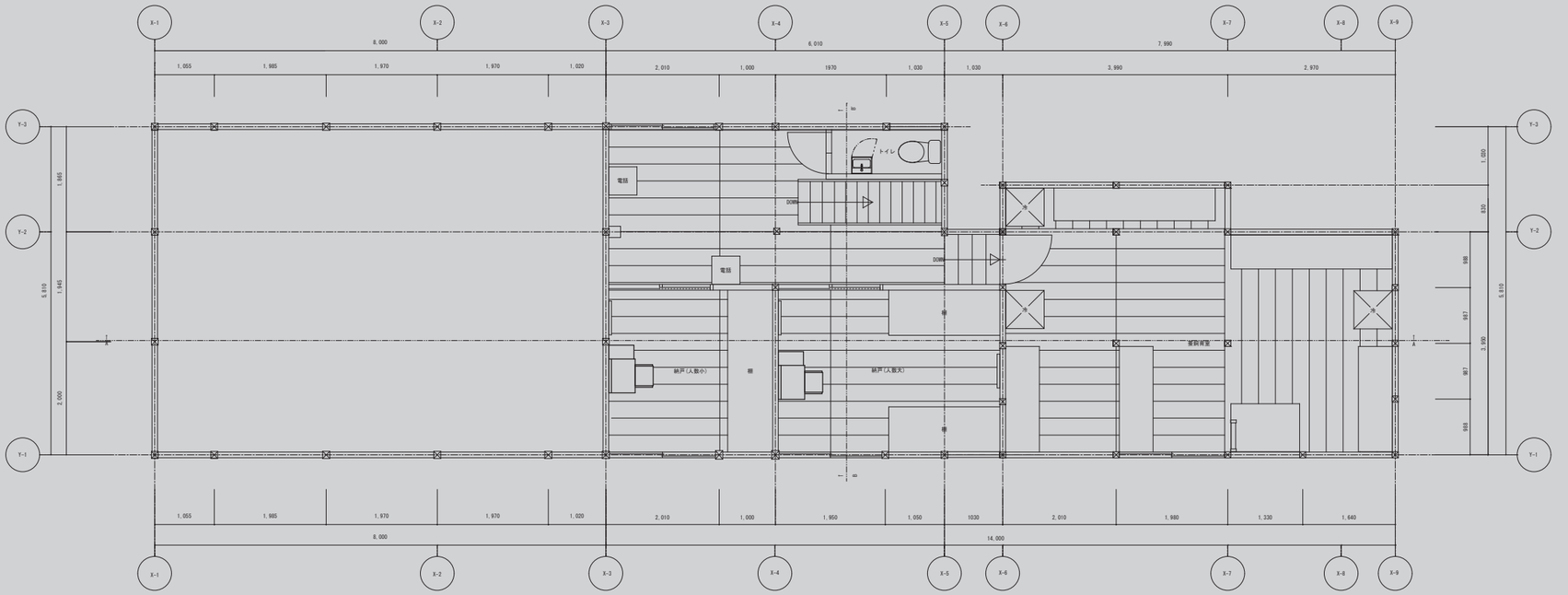
転落防止用にに生垣を設置する。高さは1mにして目線の邪魔にならないように調整。伸びてきたら留学生に切らせて各々好きな形にしてもらう。

洗濯物はここで干してもらう。下着は納戸に個人毎に干してもらうので干すのはズボンやシャツ、共用のタオルなどだ。日当たりも悪くなく風通りも良い場所だ。

放置されていた畑にゆずの木と枇杷の木を植える。この二種類の木は手入れしやすく、素人でも育てやすいため、これらを選んだ。



一階平面図 S=1:50



二階平面図 S=1:50

古民家の元の使い方を活かしつつ、山村留学の寮としての再生案を計画した。基本的に柱の位置は変更せずに利用した。母屋でも鳥井畑地区、特有の六つ間取りの部分は変更せずに細かなところと水周りを主に変更した。納屋も水周りを変え納屋の一つを事務室と宿直室に変更した。母屋も納屋も二階の床が床板一枚で抜けそうだったので、しっかりとつくり抜けないようにした。そのため全体の高さが上がった。平日と休日では古民家にいる間のスケジュールは基本的に同じである。

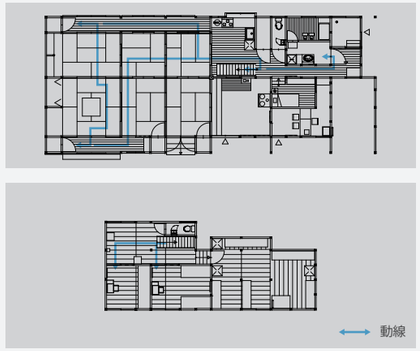
●平日のスケジュール

06:00　起床
06:30　朝食準備　洗濯物干し
　　玄関掃除　蚕の世話 (当番制)
07:00　朝食
07:50　登校
17:00　帰宅
17:15　風呂準備・蚕の世話 (当番制)
　　夕食準備 (当番制)　夕食
19:00　風呂　宿題
20:30　連絡 (明日の予定など)
21:00　自由時間
22:00　消灯　就寝

●休日のスケジュール

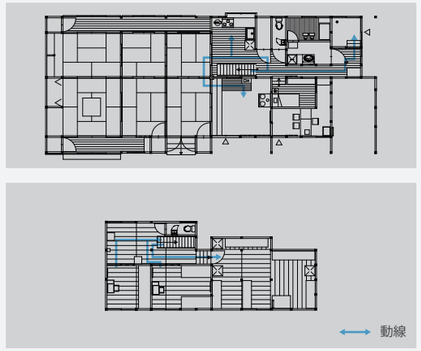
07:00　起床
07:30　朝食準備　洗濯物干し
　　玄関掃除　蚕の世話 (当番制)
08:00　朝食
08:50　集合・前日決めた予定に沿って行動
17:30　解散・帰宅
　　風呂準備・蚕の世話 (当番制)
17:45　夕食準備 (当番制)　夕食
19:30　風呂　宿題
20:30　連絡 (明日の予定など)
21:00　自由時間
22:00　消灯　就寝

06：00　起床



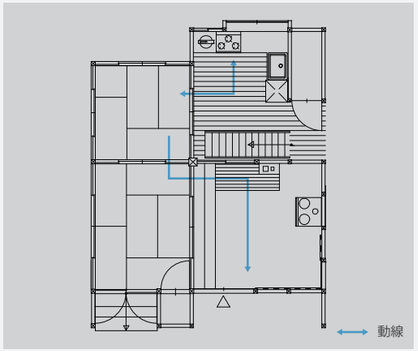
朝食の準備や掃除などがあるので早めに起床する。寝具は敷布団なので押入に片付ける。この押入は再生案を計画した時にどちらもデッドスペースになっていたので押入に変更した。一つの押入れで約四人分の寝具をしまうことができる。敷布団を片付けたあとは洗面やトイレを済ませ、納戸で身支度を済ませる。納戸は人数が多い方が大きい納戸を使う。

06：30　朝食準備　洗濯物干し　玄関掃除
　　蚕の世話



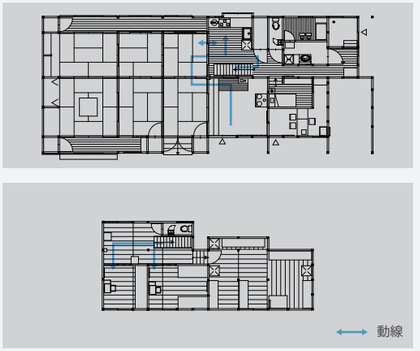
朝の支度が終わると当番制の作業だ。朝食準備は寮母一人と留学生一人で行う。洗濯物干しは留学生二人で行い、玄関掃除は一人、蚕の世話も一人で行う。朝食準備以外の作業は終わり次第、朝食準備の手伝いにうつる。玄関掃除は平日の朝は掃き掃除をし、休日に水を使って掃除をする。洗濯物は天気が悪い日は物干し室で干す。

07：00　朝食



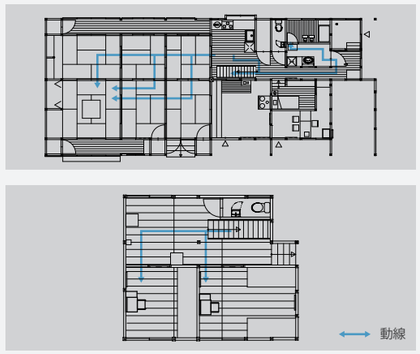
朝食は「イマ」で食べる。この「イマ」は元々ダイニングとして使われていたようで、再生後も同様に留学生と寮母の食事の場として使用する。朝食の片付けは食べ終わった順番から片付ける。片付けたあとは皆で学校へ向かう。学校に間に合いそうにない場合は寮母が片付けを行う。食事で使う卓袱台は、使わないときは倉庫に片づける。

17：15　風呂準備　蚕の世話　夕食準備
　　夕食



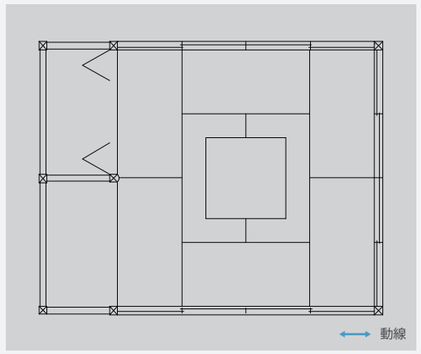
帰宅後は当番制の作業だ。基本的には朝と同じだ。自分の作業が終われば、皆、夕食準備の手伝いにうつる。夕食も朝食と同じく「イマ」で食べる。片付けも朝食と同じで食べ終わった順番から片付ける。

19：00　風呂　宿題



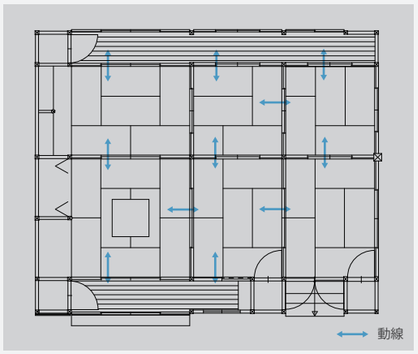
夕食の片付けが終わった者から風呂に入る。着替えは納戸から持ってくる。その間に他の人は宿題を済ます。先に入った人は上がってから宿題を済ます。風呂は三人までなら入れるようにしてあるのでまとめて入っても大丈夫だ。宿題は掘りごたつのある「ザシキ」で行う。分からないところがあれば寮母や上級生から教えてもらう。

20：30　連絡



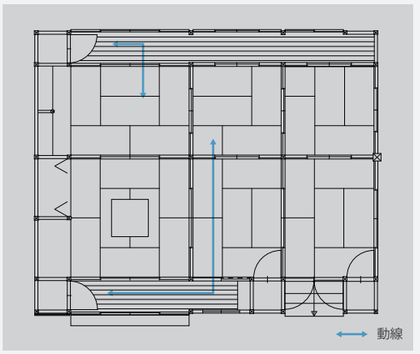
宿題が終わるとそのまま連絡事項にうつる。連絡事項の内容は、翌日の段取りや話し合い、翌月の予定だ。その他の学校であった出来事や地域であった出来事、自分が初めて感じることなど様々な事を話し合って欲しい。これも宿題と同じく、掘りごたつのある「ザシキ」で行う。

21：00　自由時間

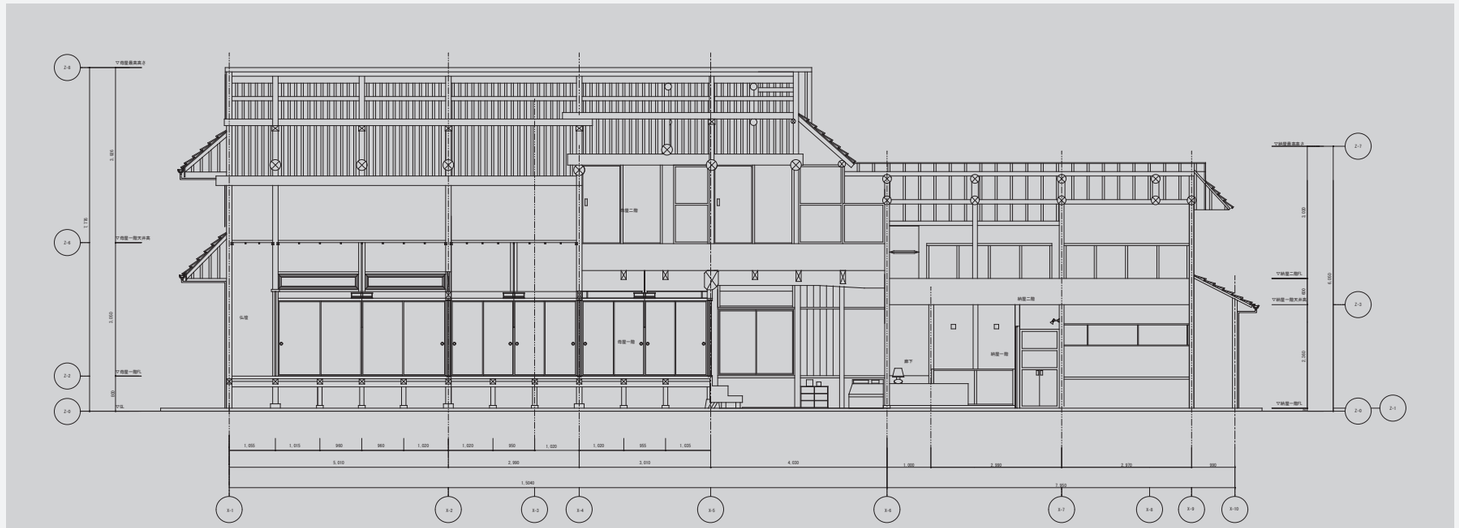


ここでようやく自由な時間ができる。六ツ間で留学生同士の交流や留学生と寮母の交流に使ってほしい。交流の方法はトランプなどのボードゲームでもよい。アナログなボードゲームは寮母が用意する。

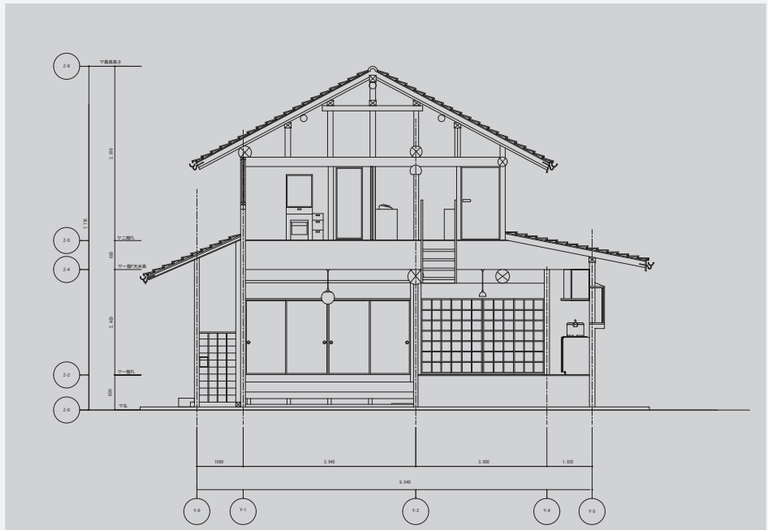
22：00　消灯　就寝



全ての灯りを消し、就寝する。人数の多い方の性別が「オクザシキ」を使い、人数の少ない方の性別が「ナンド」を使う。基本的にはこの時間に就寝するが、テスト勉強などの事情がある場合は 24：00 まで消灯時間を延ばす。



A-A′ 断面図　S=1:70

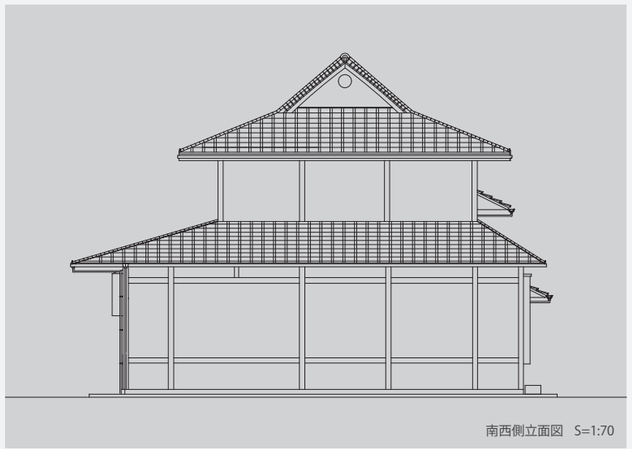


B-B′ 断面図　S=1:70

南東側立面図　S=1:70

北東側立面図　S=1:70

北西側立面図　S=1:70



南西側立面図　S=1:70

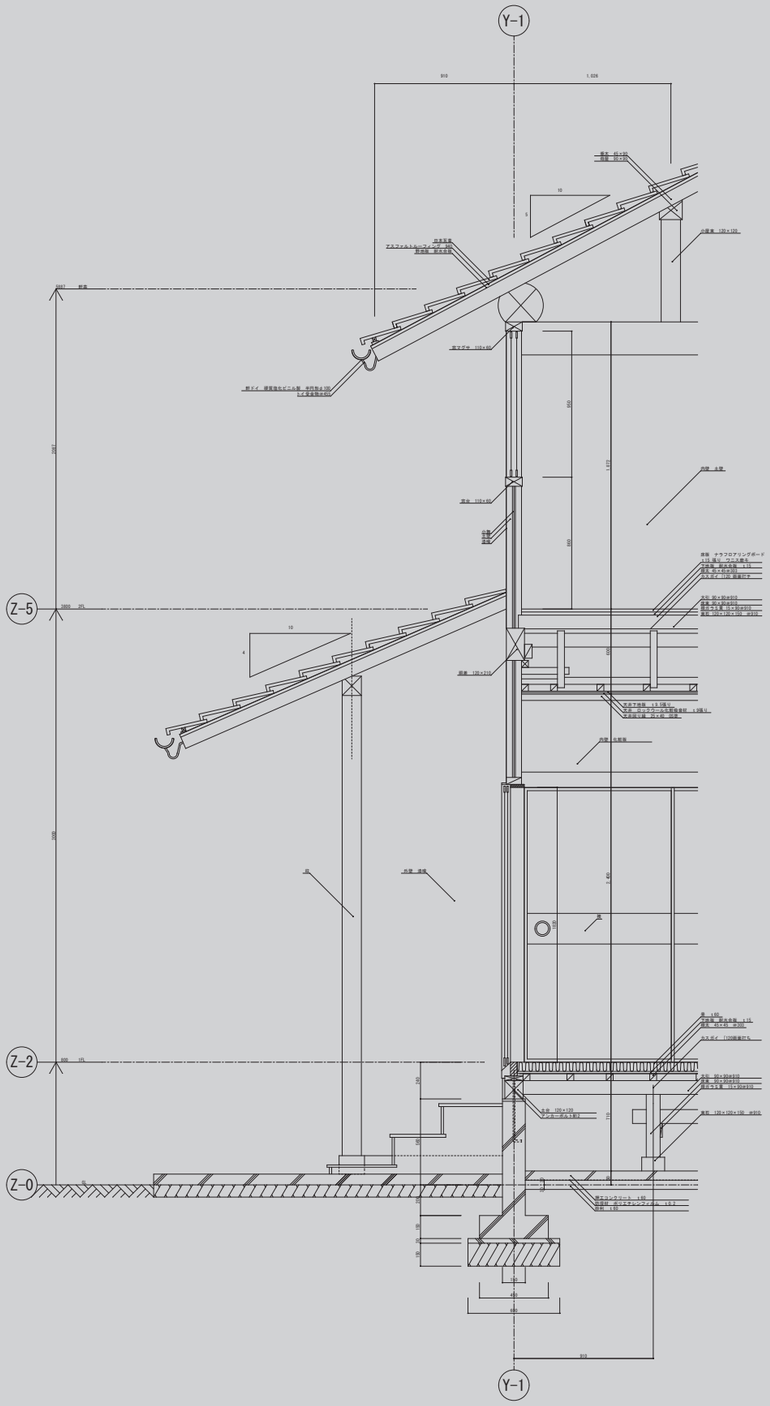
断面図

母屋も納屋も二階の床が床板一枚で抜けそうだったので、しっかりとつくり抜け落ちることがないようにした。そのため全体的に高さが上がっているが、二階の床から小屋組みまでの高さは変えていない。宿直室は靴を脱いで使用するため事務室から少しレベルを上げている。

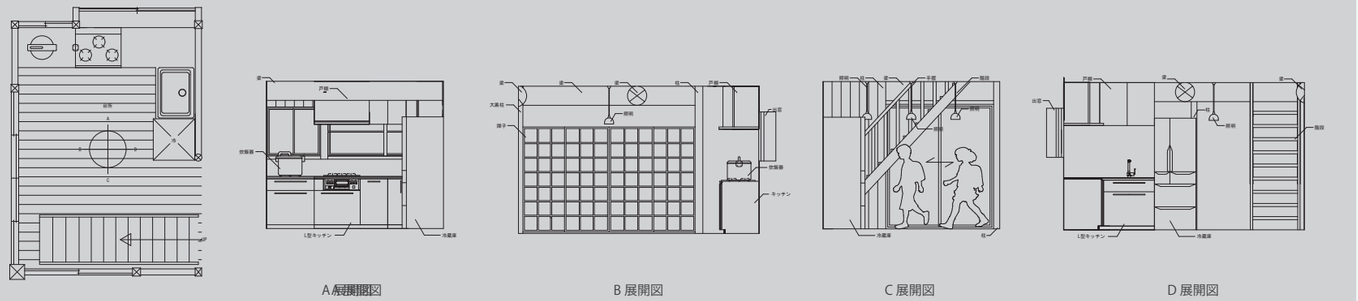
立面図

母屋は既存の外観からはあまり変更せずに計画した。変えた箇所は縁側の窓の横幅を少し小さくし、踏石を縁側の窓の端まで伸ばした。トイレがあった箇所を無くし、山側に窓をいくつか追加しただけである。納屋は事務室に変更し大きめの窓を設置、外付けのトイレは無くした。高さも上がっている。

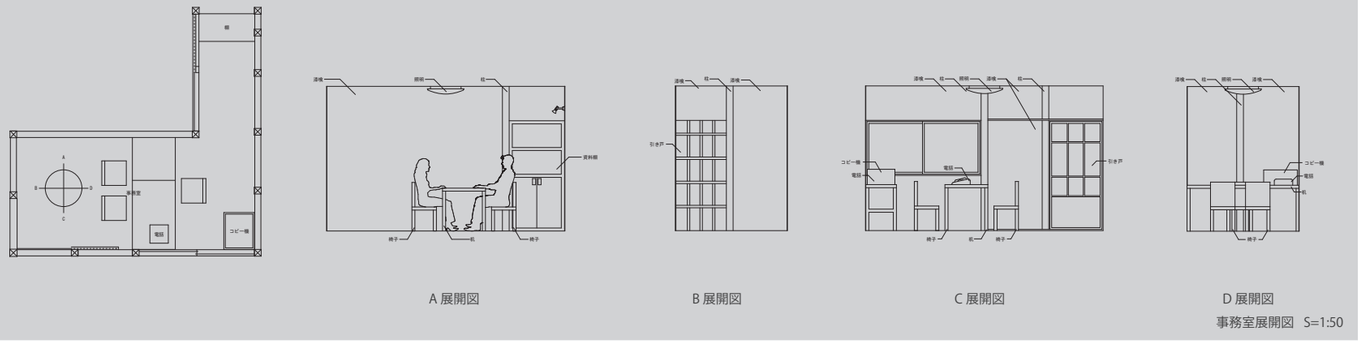
古民家の再生案 16



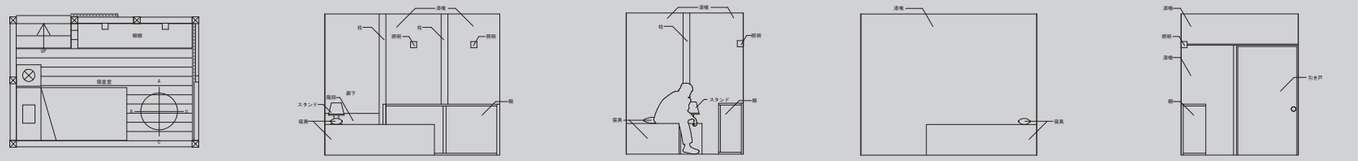
矩計図　S=1:20



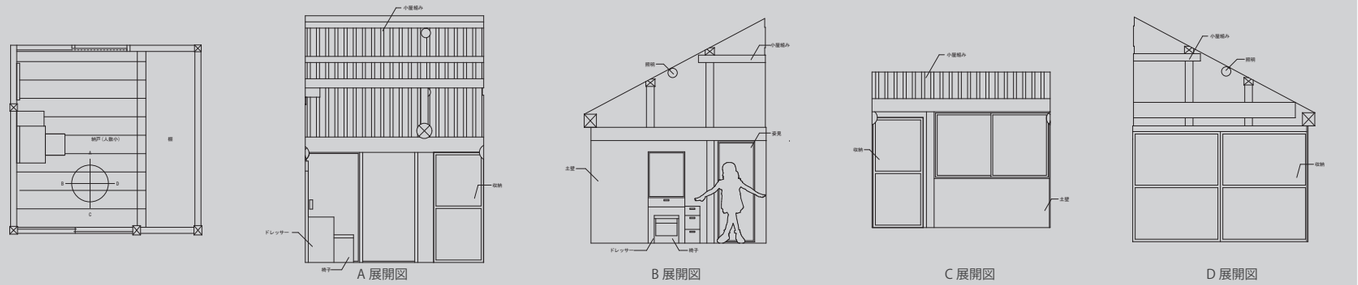
台所展開図　S=1:50



事務室展開図　S=1:50



宿直室展開図　S=1:50



納戸 (小) 展開図　S=1:50